



JR 西労組×JR 九州労組

制度や組織について意見交換

JR九州労組女性活躍推進委員会は、11月3日、大阪市内において、JR西労組の男女平等参画推進委員会の皆さんと意見交換会を開催しました。JR九州労組からは12人、JR西労組からは21人の参加で合計33人が現地に参集しました。

意見交換会ではグループに分かれ「それぞれの会社の両立支援の取組み紹介」「組合活動の女性参画率向上と女性役員を増やすための取組み」「労働組合の取組みで過去の良かったものとこれからやってみたいこと」と3つのテーマについて話し合い、活発な意見交換ができました。新たに知ることのできた取組みを、今後、地本や支部、分会の取組みに反映させ、より良い組織づくりに努めていきます。



◆JR 西労組 白壁副委員長あいさつ◆

昔は女性は夜勤ができなかったので鉄道ははじめ夜間働く職業は男性の仕事だった。平成11年に法律が変わり、鉄道にも女性が多く働くようになった。しかし体力差や結婚・出産などを経ても働き続けることが難しいという声があり、労働組合が現場の意見や課題を集めて会社と協議し、改善を行ってきた。今後も諦めることなく、働き続けられる環境を作っていかなければいけない。

一方で労働組合の役員の世界も男性社会になってしまっている。本来能力は同じなのに、男女比率が社員比率と合っていないということであれば、仕組みややり方がおかしいということ。是非固定概念に囚われることなく、どうすれば女性役員が増えるか、女性組合員が参加しやすくなるか考えて欲しい。

《会社の両立支援の取組み（意見紹介）》

- ・短時間勤務は小学校まで必要だと思う。3歳までというのは現実的には難しい。九州の現場では、育児休職から復帰後に短時間勤務制度しか実際に使える制度がなく、退職に繋がっている。
- ・両社とも制度は充実してきているが、少人数の職場だと制度を十分に活用できていないのではないかと。育児休職から復帰した後の働き方や周りの影響もしっかり考えていく必要がある。

《組合活動の女性参画率向上（意見紹介）》

- ・労働組合の活動は、入って見ないと分からないことが多く、行ってみたら良かったとの意見も多い。皆、誰かが誘わないと始まらない。誘うことが大切。
- ・西日本は育児中の女性組合役員が多い。育児をしながら役員ができるような環境整備が必要である。
- ・会議の終わる時間を厳守することが大事。終了時間を明記すべき。次の予定が入られないことがワークライフバランスを崩している。



JR 福知山線列車脱線事故現場

祈りの杜へ献花に行きました

意見交換会の前日に、祈りの杜へ行き献花を行いました。JR西日本の担当者から現場の説明を受け、地下の資料館も見学しました。壁一面の当時の写真は衝撃的で、関係者の手記からは事故の悲惨さを伺い知ることが出来ました。高めた安全意識を持ち帰り業務に活かします。

